

令和5年度
2023.4～2024.3

年間展示予定

大阪歴史博物館
Osaka Museum of History

特別企画展 6F 特別展示室



い かい ほう こう 異界彷徨 —怪異・祈り・生と死—

令和5年4/28[金]～6/26[月]

天変地異や災厄の原因を理解し、生の苦しみや死の恐怖を克服するために人びとが想像してきたこの世ならざる「異界」。日常生活を基層で支える概念ともいえる異界は、あらゆる場面で私たちの前にあらわれます。本展では、私たちは異界をどのように捉え、交渉し、また対応してきたのか。このことについて、民俗・歴史・考古・美術などのさまざまな資料から考える契機とします。(表)

左：天狗像
江戸時代後期～明治時代
本館蔵
中尾堅一郎氏 寄贈

右：朱鍾道(しゅしょうき)図(部分)
丹羽桃溪(にわとうけい)筆
文化8年(1811)
本館蔵
松村恭一氏 寄贈

特集展示 8F 特集展示室

※令和5年5月17日[水]～6月26日[月]は8F 特集展示室を閉室いたします。

新収品お披露目展 —令和元年度から3年度まで—

令和5年3/23[木]～5/15[月]

大阪歴史博物館では開館以来、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く紹介し、理解を深めるための活動を行っています。当館では毎年、この目的に沿う資料の収集に努めるとともに、市民の皆様からご寄贈いただいたさまざまな資料についても保管し、研究や展示等に活用しています。

今回の展示では、令和元年度、令和2年度、令和3年度に新たに館蔵品となった寄贈品から未公開のものを中心にご紹介します。(阿部)



渡邊家住宅照明器具
昭和12年(1937)頃
本館蔵

ナニコレ?のこうこがく なにわの考古学 2023

令和5年6/28[水]～10/2[月]

なにわ歴博のコレクションを、「ナニコレ?」といいながら見て回る、考古学のクイズラリー的展示です。考古学とは、発掘された遺跡や遺物というモノ・物質を通して歴史を探究する、そんな学問ですが、小難しいことはすこし置いておき、大人も子どもも気楽に、じっくりモノを見る体験を楽しんでいただければ幸いです。色、素材、形などさまざまなモノを集めています。(安岡)



青磁碗
鎌倉時代 本館蔵

令和5年10/4[水]～令和6年1/8[月・祝]

大阪市内には数多くの遺跡が埋もれており、毎年各地で発掘調査が行われています。本展覧会では、令和3年(2021)から4年(2022)度を中心に、一般財団法人 大阪市文化財協会・大阪市教育委員会が実施した大阪市内の遺跡発掘調査の中から、住吉区の津守廃寺、中央区の大坂城跡など注目される調査成果を出土遺物や写真パネルで紹介いたします。(村元)



西中島7丁目所在遺跡B地点で
見つかった中世の井戸

描かれた人たち —尊崇・憧憬・追憶—

令和6年1/10[水]～3/4[月]

古来、人は人を絵に描いてきました。憧れの人として、懐かしい人として、時には人を超越した神として。人は必ずこの世を去りますが、描かれた人は永遠の命を手にして生き続けるのです。本展覧会では、館蔵品から選りすぐった「描かれた人たち」が大集合します。この機会に、歴史上著名な人物から一般の人々まで、「描かれた人たち」の時空を越えた、言葉なき対話をぜひ楽しんで下さい。(岩佐)



近松門左衛門肖像
本館蔵

※本展覧会は
JSPS科研費20K20676の
助成を受けています。

再発見! 秀吉の大坂城 —金箔瓦と家紋瓦—

令和6年3/6[水]～5/6[月・祝]

豊臣秀吉が築いた大坂城は、いま私たちが見ることのできる徳川の大坂城の地下に埋もれていることが知られています。現在、地下から見つかった豊臣大坂城の石垣を公開する施設の建設が進められています。本展ではこれに合わせて、秀吉の大坂城を象徴する金箔瓦や武家屋敷の屋根を飾った家紋瓦などの発掘資料を陳列し、豊臣大坂城と城下町の姿を紹介します。(豆谷・岡本)



方形桐文金箔瓦
本館保管

いずれも
常設展示観覧券で
ご覧になれます。

■常設展示観覧料金

大人 600円(540円)
高校生・大学生 400円(360円)

※高校生・大学生は要証明提示
※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明提示)、
障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料
※()内は20名以上の団体料金、特別展は別途料金

■開館時間

午前9時30分～午後5時
※入館は閉館の30分前まで

■休館日

火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/28～1/4)
※ただし、5月2日[火]・8月15日[火]は開館